

財政健全化指標の報告

地方公共団体の財政の健全化に関する法律（財政健全化法）の施行により、地方公共団体は毎年度、実質的な赤字や公社・第三セクター等を含めた実質的な将来負担等を示す4つの指標（健全化判断比率）を議会に報告しなければならないこととなっています。

この指標のうち、1つでも定められた基準以上になると、早期健全化団体や財政再生団体となり、町の財政運営が国の関与のもと行われることとなります。

平成26年度決算では、基準以上となる指標はありませんでした。

今後も、この指標を維持できるよう健全な財政運営を行ってまいります。



■実質赤字比率 ー%

普通会計に相当する一般会計と特別会計（「一般会計等」といいます。）の赤字額の標準財政規模に対する割合を示す指標です。

広川町では、赤字がないため、ー（ハイフン）表示となっています。

●早期健全化基準 15%以上

●財政再生基準 20%以上

■実質公債費比率 6.1%

地方公共団体に設置された全ての会計に加え、一部事務組合等を含めた、一般会計等が負担すべき全ての地方債の償還金の標準財政規模に対する割合を示す指標です。

この割合が18%以上となると起債の借りに県知事の許可が必要となり、25%以上となると起債の借入に一定の制限がかかります。

●早期健全化基準 350%以上

■連結実質赤字比率 ー%

一般会計等に加え、水道事業会計等の公営企業会計や国民健康保険会計などの地方公共団体に設置された全ての会計の赤字額の標準財政規模に対する割合を示す指標です。

広川町では、全ての会計で赤字がないため、ー（ハイフン）表示となっています。

●早期健全化基準 20%以上

●財政再生基準 40%以上

■将来負担比率 ー%

地方公共団体に設置された全ての会計、一部事務組合等、第三セクター、土地開発公社を含めた負債（借金など）のうち、一般会計等が将来負担すべき実質的な負債の標準財政規模に対する割合を示す指標です。

広川町では、借金などの負債もありますが、この借金のうち、将来地方交付税の中に算入されるものや、貯金（基金）がありますので、将来負担額はマイナスとなり、ー（ハイフン）表示となっています。

●早期健全化基準 25%以上 ●財政再生基準 35%以上

特別会計

一般会計とは別に、国民健康保険のように特定の人たちが相互扶助を目的とした事業や、簡易水道のように限られた人たちが利益を受ける事業は、原則として利益を受ける人たちが負担するお金で運営します。このように独立した会計で事業を行うもので、本町では9の特別会計があります。

平成26年度の決算では、9の特別会計全てにおいて歳入歳出同額または黒字決算となりました。

単位（万円）

| 会計 | 歳入 | 歳出 | 差引 |
|---------|----------|----------|-------|
| 学校給食 | 7,647 | 7,630 | 17 |
| 住宅資金貸付 | 6,717 | 6,717 | 0 |
| 浴場運営事業 | 1,306 | 1,306 | 0 |
| 国民健康保険 | 11億8,382 | 11億8,265 | 117 |
| 後期高齢者医療 | 1億4,955 | 1億4,813 | 142 |
| 介護保険 | 7億6,780 | 7億6,765 | 15 |
| 簡易水道 | 1億9,142 | 1億7,998 | 1,344 |
| 下水道 | 1,385 | 1,385 | 0 |
| 土地取得 | 0 | 0 | 0 |

■教育費

学校運営の費用や、公民館、体育館など教育全般の事務や事業に使ったお金

- ・小、中学校管理運営費 6,200万円
- ・B & G 海洋センター体育館大規模改修事業 5,225万円
- ・濱口梧陵史跡散策トイレ新築・改修工事 1,070万円など

■消防費

消防署、消防団運営や防災対策などに使ったお金

- ・湯浅広川消防組合負担金 1億3,520万円
- ・防災行政無線デジタル化事業 6,589万円
- ・唐尾地区消防車庫移設事業 4,106万円など

■農林水産業費

農道、林道、漁港の整備、営農活性化などに使ったお金

- ・農業基盤整備促進事業（上中野地区農作業道改修） 3,643万円
- ・林道七力線改良事業 2,795万円
- ・基盤整備事業（津兼・三船農道整備） 2,525万円
- ・唐尾漁港機能保全計画策定事業 1,000万円など

■その他

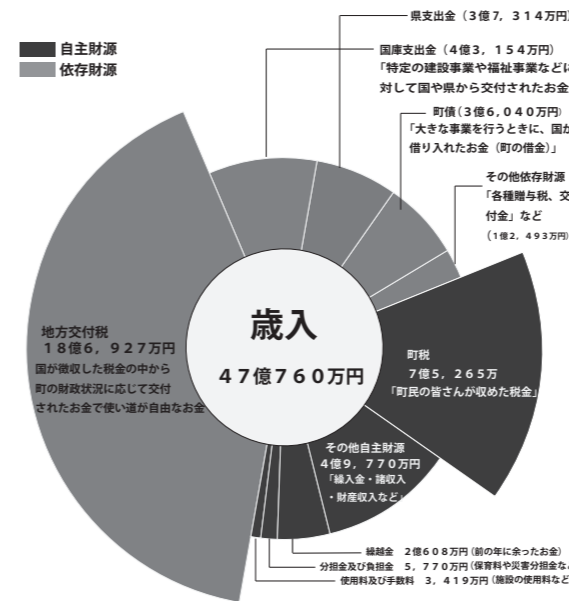
- ・災害復旧費 6,792万円
- ・議会費 6,097万円
- ・商工費 3,084万円など

平成26年度 決算報告

一般会計の歳出額は 48億4,032万円

それぞれのご家庭に家計が、また会社や団体ごとに収支決算があるように、町にも年度ごとに予算と決算があり、知恵を絞ってお金を大切に使っています。

1年の締めくくりとして平成26年度の決算が、昨年12月定例会で認定されました。ここでは、特に町会計の核となる一般会計の使いみちを円グラフにしてお知らせします。



平成26年度決算の特徴

西岡町長の公約である「安全・安心なまちづくり」「教育のまちづくり」「活気のあるまちづくり」を達成するため、防災行政無線のデジタル事業、教育施設整備基金の造成、上水道をはじめとするライフラインの充実など、町民の皆さんの生活に密接した必要な事業を実施しています。

歳入総額から歳出総額を差し引いた2億7,718万円のうち、翌年度に繰り越した事業に必要な財源1億7,788万円を差し引いた額9,930万円が26年度の黒字額となりました。

今後も健全な財政を堅持しながら、「住んで良かった」と思えるまちづくりを推進していきます。

歳出

■民生費

老人、障害児者、児童などの福祉全般の事務や事業に使ったお金

- ・特別会計（国保・介護・後期高齢者医療） 繰出金 3億3,639万円
- ・障害者自立支援給付費 1億7,395万円
- ・なかよし子ども園の運営費 1億4,067万円
- ・児童手当等給付事業費 1億2,155万円
- ・乳幼児保育措置費（ポッポ保育園への委託等） 6,118万円など

■総務費

税徴収、住民窓口、選挙、統計、地域づくり、地域情報通信基盤整備事業などに使ったお金

- ・教育施設整備基金への積立 3億7,000万円
- ・電算システム運用経費 6,108万円
- ・役場庁舎維持管理費 2,015万円
- ・有田広域圏事務組合負担金 2,396万円など

■衛生費

各種健診やごみ処理などに使ったお金

- ・有田衛生施設事務組合負担金 2億7,722万円
- ・各種予防接種委託料 2,026万円
- ・合併処理浄化槽設置補助金 1,499万円など

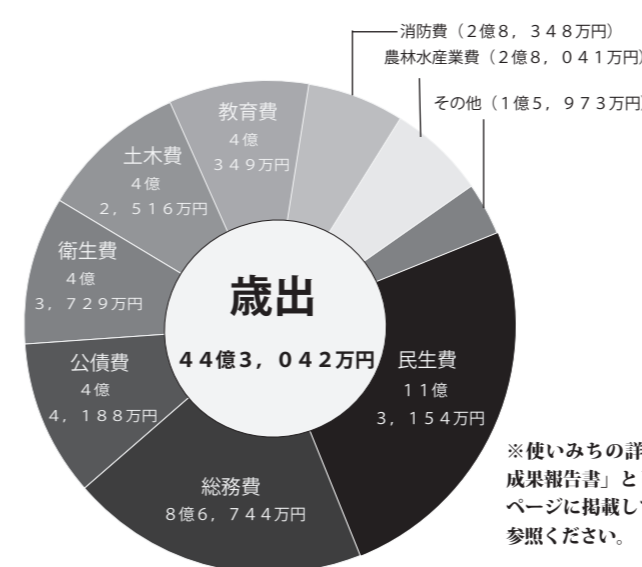
■土木費

道路、港湾、住宅管理などの事務や事業に使ったお金

- ・社会資本整備総合交付金事業（名島・南金屋線改良、岩淵線災害防除、岩淵線改良） 1億3,194万円
- ・緊急防災・減災事業（天皇区避難道路整備） 3,205万円
- ・公営住宅等ストック総合改善事業 3,098万円
- ・地域の元気臨時交付金事業（南広西15号線改良） 2,362万円など

■公債費

町の借金の返済に使ったお金



※使いみちの詳細は、「主要施策成果報告書」として広川町ホームページに掲載していますので、ご参照ください。